



湘北短期大学の SDGs について ご紹介するニュースレターです

～発行者からのお知らせ～
23 年度から、Web サイト湘北 SDGs を開設し、授業や大学全体の取り組みを紹介しています。

ニュースレターでは、Web サイトに掲載した記事の中から、学科の授業や部門ごとの活動を、カテゴリー別にまとめて紹介していきます。

今後とも湘北短期大学は地域に根ざした教育機関として「Think Globally, Act Locally」を合言葉に、社会課題の解決にむけて持続可能な未来の創り手を社会に送り出していきたいと思います。

豊永さんの講義の様子 (二見・近藤クラス)



湘北 SDGs

Think Globally, Act Locally.

2025 年度 第 3 号
(通算第 29 号)
今回の発行人 築瀬千詠
yanase@shohoku.ac.jp

学校法人ソニー学園 湘北短期大学
生活プロデュース学科・リベラルアーツセンター

〒243-8501 厚木市温水 428 TEL:046-247-3131 FAX:046-247-3667

【授業紹介】「生活と SDGs」豊永翔平氏による特別授業を実施 (2025 年 7 月)

生活プロデュース学科では、今年度も「生活と SDGs」の授業に、外部講師豊永翔平さんをお招きし、「気候変動時代における新たな食と農のかたち」をテーマにお話し頂きました。豊永さんのオンラインと対面によるそれぞれの特別授業に、学生は真剣に耳を傾けていました。

〔考古学から農業の世界へ〕

豊永さんは、大学で考古学の研究される中で、文明が衰退した要因の一つが、気候変動による食料難であったことに気づかれたそうです。今、80 億人が暮らす地球では、温暖化、淡水の枯渇、耕作地の減少などにより、近い将来、深刻な食料不足が起きると予想されています。豊永さんは「21 世紀は食料と水の戦争の時代」とお話し、私たち一人ひとりが未来の地球を真剣に考えていく時代にきていることを改めて感じました。豊永さんは、気候変動と食料不足の問題を解決するために、26 歳で起業、沖縄に研究開発拠点 Cultivera を設立し、環境に優しい独自の栽培技術「Moisculture」を開発しました。これは、特殊な繊維層に水をしみこませ、気化した湿度で野菜を育てるといった画期的な特許技術です。

〔POMONATOMATO〕

今回、豊永さんには、「Moisculture」の技術で栽培されたトマト「POMONATOMATO」を受講生にご提供いただきました。豊永さんによると、「POMONATOMATO」は、「トマトを最小限の水分で育てることによって、生きようとする力が強くなり、野菜本来の生命力を引き出すことができる」とのことです。水耕栽培と比較して水使用量を 90% 減少でき、また、糖度や酸度もコントロールすることができるとのこと。また、2023 年に、トマトとしては世界で初めて GABA の機能性表示食品の届出が受理されたことが、大きく報じられました。

豊永さんが CEO を務める株式会社ポモナファームは三重県多気町にあり、北緯 34 度 32 分線に位置します。豊永さんによると「この線は世界の四代文明や日本の稲作地帯を照らした豊穡の道」とのことです。「POMONATOMATO」の奥深い味わいは、人類が語り継いできた文明の記憶でもあるのか。豊永さんのお話と「POMONATOMATO」には、そのようなロマンをも感じました。

〔海上都市構想〕

現代は、人間の経済活動の影響により、地球上の各地において気候変動に起因する異常現象が発生しています。例えば、①毎年複数の大型台風の被害が発生、②世界的な干ばつ、③感染症の発生、④超集中豪雨、⑤水不足、⑥世界的山火事、⑦海面上昇、⑧熱波、⑨農業壊滅、⑩死にゆく海、⑪大気汚染、⑫気候難民などです。この先、人々が安心して住み続けてゆくことが出来るエリアが減少し続けるとすれば、これまでに誰も試みようとしなかった新たな取り組みが必要となります。豊永さんは、株式会社 N-ARK が推進する、海上都市構想のプロジェクトにも関わられています。海洋都市構想とは、民間海洋ビジネスイノベーションにより、海洋を新たな経済圏 = NEW OCEAN とし、気候変動に対してレジリエンスな海洋経済圏を作り出していくものです。「気候変動の時代だからこそ、新しいことにチャレンジすることが大切」という言葉で、豊永さんは講義を締めくくられていました。

〔学生たちの感想〕

豊永さんの講義を聞いた学生たちの感想には、「今日の講義を受けて、日本の農業状況に関して細かく知ることが出来ました。高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加、そして食料自給率の低さといった課題がたくさんあることを学び、今の日本の農業の課題に関して考えるきっかけになりました。」「ファッションコースで服の事を学んでいますが、服の原料となるコットンも取れる回数が減るということを知りました。今はお金があれば簡単に服が手に入りますが、今のように簡単に作れる機会が減ってしまったりして価値も高くなる可能性もあるのかもしれないように思います。」といった、今の社会の問題を理解することができたという声が多くみられました。

また、「たくさんの時間をかけて問題を解決してきてもほかの問題が増えていて、わたし自身できることは少ないけどなにか一つでも行動することが大事なんだと感じました。」「野菜の育て方が進化していたり、地球温暖化に対応する技術ができたりしていると聞いて進化しているのは AI だけではないんだということを知ることが出来ました。これからの未来に向けて私にもできることはないか考えながら生活していこうと思います。」といった、今後の自分の日々の生き方を見直す意見もあり、学生たちが深く学んだ様子が見られました。

(生活プロデュース学科 近藤哲、二見総一郎)



湘北短期大学では、2023 年から毎年この授業に豊永翔平氏をお招きし、SDGs の基礎を学んだ学生たちに、気候変動が農業に及ぼす深刻な影響と、その課題解決のために豊永さんが開発した画期的な栽培技術について教えて頂き、実際にトマトを味わうことでその技術力の素晴らしさを実感しています。生活プロデュース学科の学びは人々の日々の暮らしに関わる幅広い領域にわたります。学生たちは、豊永さんの教を後期以降の発展的な学びに活かしていきます。

(生活プロデュース学科 築瀬 千詠)